

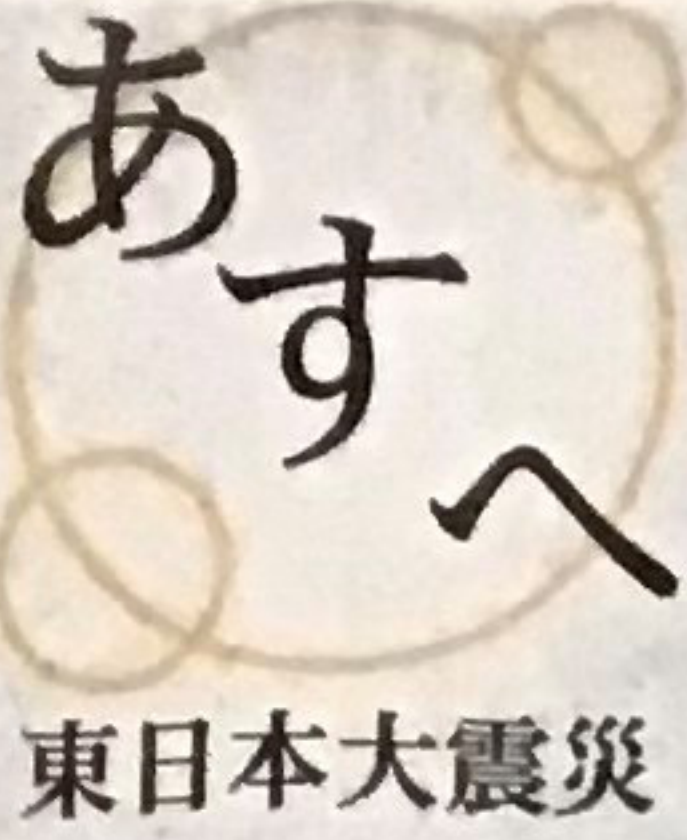
ジャーナリスト寺島さんの詩で組曲

被災地に希望の歌声を

東日本大震災などの犠牲者を悼み合唱公演を行う「レクイエム・プロジェクト仙台2021」が11日、多賀城市文化センターである。ローカルジャーナリスト寺島英弥さん(名取市)の詩に、プロジェクトを主宰する作曲家・上田益さん(東京)が曲を付けた混声4部組曲「また逢える〜いのちの日々かさねて〜」が全曲初演される。

プロジェクト・11日多賀城で初演

プロジェクトは阪神・淡路大震災犠牲者追悼をきっかけとして2008年に神戸市で始まった。その後、東日本大震災などの災害、広島原爆といった戦災犠牲者を悼み、活動の場は岩手、



あすへ
東日本大震災

宮城、福島3県をはじめ国内外に広がった。震災10年に当たり、上田さんは、河北新報社編集委員などとして被災地に寄り添った取材を続けてきた寺島さんに、詩を依頼。曲を付けて、歌にした。

4編の詩には、「亡き子と再会する日まで懸命に生きよう」と決意する母親(石巻市)や、住民の憩いの場だった喫茶店復活を目指す店主(陸前高田市)、除染で



工藤さんの指導で練習に熱がこもる合唱団

瘦せた土地を次世代のために耕す農業者(福島県飯館村)ら、被災地で出会った人々の姿が描かれている。「自分が聞いてきた被災地の声を、歌という方法で広く伝える機会をもらっ

た」と寺島さん。上田さんは「直球の言葉でつづられた詩には、地域が受け継いできた文化や誇りがこもっており、希望を持って前に進む曲にしたかった」と思いを語る。

公演にはレクイエム・プロジェクト仙台合唱団を中心に混声合唱団گران(仙台市)、女声合唱団コーロ・カナリーノ(同)メンバーら約70人が参加。「また逢える」のほか、久慈市の

詩人宇部京子さんの詩による作品なども演奏される。指揮は上田さんと工藤欣三郎さん(仙台メサイアを歌う会常任指揮者)、ピアノ

ノは菅原紀子さん。仙台でのプロジェクトが始まった2013年から毎年指揮している工藤さんは「自分たちに身近な詩で、

これまで以上に気持ちが入る。音楽に込められた悲しみと希望をしっかりと表現したい」と誓う。

午後2時半開演。無料だ

が整理券が必要。多賀城市文化センターなどで配布している。連絡先は上田さん080(5181)6692。